

## 「香港中文大学サマープログラム参加報告書」

京都大学総合人間学部3年 伊藤愛莉

今回のプログラムに参加して、語学に対する学習意欲が向上しました。今回のプログラム内容は3週間にわたり、平日は香港中文大学で中国語の授業を受け、週末は現地の学生さんに香港の街を案内してもらい、観光をするというものでした。私はこのプログラムの中で、中国語よりむしろ英語の会話がスムーズにできることの大切さを痛感しました。日本人以外のクラスメイトとペアワーク等をする際のコミュニケーションや向こうの大学の事務の方との会話など様々な場において、英語は必要になりました。そこで私は、大学で授業を受けている生徒や大学で働く人の多くは英語が出来ることは前提であり、そのうえで中国語を学んでいるということに気づきました。私は他の人より英語を話すことが出来ず、中国語の授業の場や現地学生や他国からの留学生との交流に苦勞することが多かったです。その際、今回のプログラムで自分の英語力の未熟さに気づかされ、更なる英語力の向上の必要性を感じました。そのため、今後は積極的に英語を使う機会を増やしていこうと思いました。

中国語に関しても自分の未熟さを痛感しました。自分は2年ほど中国語を勉強しているのですが、レベル2のクラスにはついていくことが出来ずにショックでした。文法はまだついていけたのですが、リスニングやスピーキングに関してはほとんど初心者レベルであることに気づかされ、勉強の仕方をもう少しコミュニケーション能力を高める形式に変えるべきだと感じました。私は、来年の後期に台湾への交換留学を予定しているのですが、それまでに中国語でのコミュニケーション能力を少しでも高めるべく頑張ろうと思いました。

語学以外に関して、私が最も衝撃を受けたのは深圳に行った時に見た光景です。深圳では体の一部を失っていたり不自由であったりする方が駅などに座って施しを求めている姿が多くみられました。日本では昔は傷痍軍人などがそのような行動をしているとは聞いたことがありますが、実際にこんなに目にしたことはなかったので衝撃でした。中国では体が不自由な方のセーフティーネットがしっかりしていないのか、中国では体の不自由な人に施しを与える文化があるのか分からなかったのですが、彼等の姿はなにか考えさせられるものがありました。傷痍軍人についての小説を読んだこともあって興味のある現象なので、今後、この問題について様々な文献を読んで自分なりに調べてみようと思います。

<事務局使用欄> 受付番号:

-